

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第3巻第37号

第37週(9月8日~9月14日)

発行年月日:平成15年(2003年) 9月 19日

発行:滋賀県立衛生環境センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1) 全数報告の感染症(1類~4類)

感染症類型	疾患名	報告数 (37週)	累積報告数		平成14年報告数	
			滋賀 (37週)	全国 (37週)	滋賀	全国
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	1	3	330	6	693
	パラチフス	0	0	23	1	33
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	7	1879	14	3132
4類感染症	アメーバ赤痢	0	2	347	6	453
	エキノкокクス症	0	0	15	1	9
	オウム病	0	1	35	0	55
	急性ウイルス性肝炎	0	3	520	2	915
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	3	80	2	146
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	43	1	90
	後天性免疫不全症候群	0	6	611	6	888
	ツツガムシ病	0	1	136	0	329
	梅毒	1	2	341	4	561
	破傷風	0	1	48	0	105
	レジオネラ症	0	1	106	1	166
指定感染症	重症急性呼吸器症候群(SARS)	0	0	0	0	0

* 平成14年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

* 指定感染症:患者が発生した場合に、都道府県知事の判断により、まん延防止のための迅速な対応が可能になります。

2) 定点把握の対象となる4類感染症

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								前週との比較(定点当たり患者数)
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	1.19	1.29	4.83	0	0	0	0	0	
A群溶連菌咽頭炎	0.63	0.14	1.33	0	1.40	0	0	2.00	
感染性胃腸炎	1.03	3.00	2.00	0	0	0	0	0	
水痘	0.47	0.43	1.00	0.25	0	0.25	0.50	1.00	
手足口病	0.97	0.29	0.50	1.50	2.20	1.75	0.25	0.50	
伝染性紅斑	0.09	0.14	0.17	0	0	0.25	0	0	
突発性発疹	0.78	0.71	0.83	0.50	0.40	0.50	1.50	1.50	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風疹	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0.66	1.43	0.67	0	0	0.75	0.75	0.50	
麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎	0.56	0.29	0.67	0.50	0.40	0.50	0	3.00	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.29	0	2.00	0	0	0	0	0	
急性脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0.43	0	0	0	0	0	3.00	0	
マイコプラズマ肺炎	0.14	0	0	0	0	0	1.00	0	
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

0 0.5 1 1.5 2
定点当たり患者数

3) 今週のトピックス

咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎の発生に地域的な偏り

定点把握の対象となる4類感染症の発生状況を先週と比較すると、A群溶連菌咽頭炎、手足口病、流行性耳下腺炎等の定点当たり患者数が増加しています。また、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ等の定点当たり患者数は減少しています。

咽頭結膜熱については、第34週(8月18日～8月24日)から増加していた定点当たり患者数は、今週は減少していますが、**草津、大津**保健所管内においては、それぞれ、4.83、1.29と多くなっています。

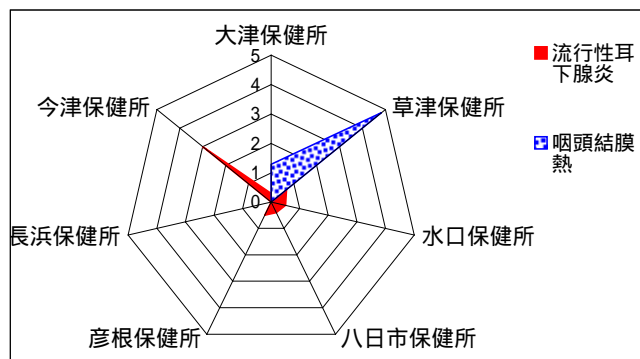
A群溶連菌咽頭炎については、**今津**保健所管内の定点当たり患者数が2.00と多くなっています。

手足口病については、第35週、第36週、37週の定点当たり患者数が少し増加しており、**水口、八日市、彦根**保健所管内における定点当たり患者数が多くなっています。

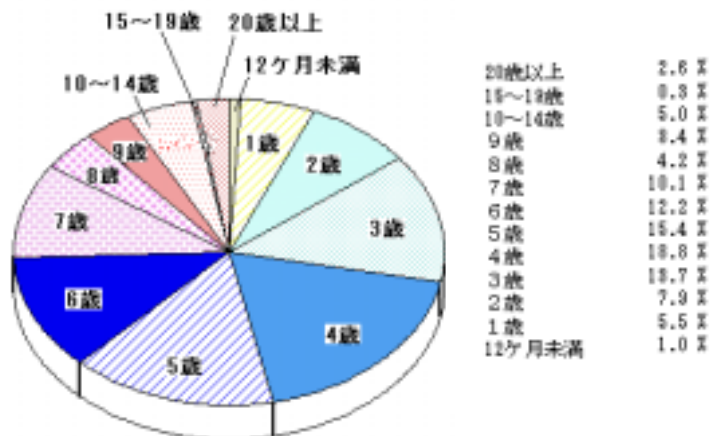
流行性耳下腺炎については、**今津**保健所管内の定点当たり患者数が3.00と多くなっています。

* 流行性耳下腺炎および咽頭結膜熱の保健所管内別発生状況、流行性耳下腺炎の年齢別発生状況は下記のグラフのとおりです。

流行性耳下腺炎および咽頭結膜熱の保健所管内別発生状況(平成15年第37週)



流行性耳下腺炎の年齢別発生状況(平成15年第1週～第37週)



平成15年第1週～第37週における流行性耳下腺炎の年齢別発生状況についてみると、4歳において最も多く発生しており、全体の18.8%を占めています。続いて5歳、3歳、6歳の順に多くなっており、3～6歳で全体の59.9%を占めています。

* 流行性耳下腺炎の感染症法および学校保健法における取り扱い

- iDWR2003年第5巻第35号 感染症の話(流行性耳下腺炎)より -

感染症法における取り扱い

流行性耳下腺炎は4類感染症定点把握疾患であり、報告の基準は以下のとおりです。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の2つの基準を満たすもの

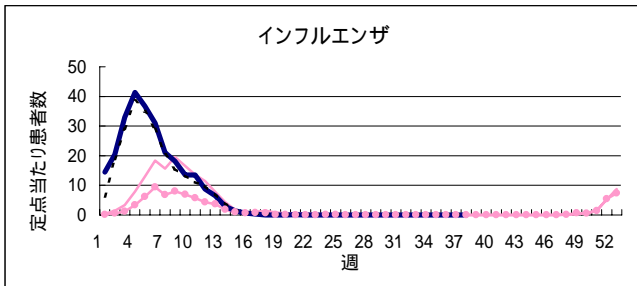
1. 片側ないし両側の耳下腺の腫脹と、2日以上持続
2. 他に耳下腺腫脹の原因がないこと

上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

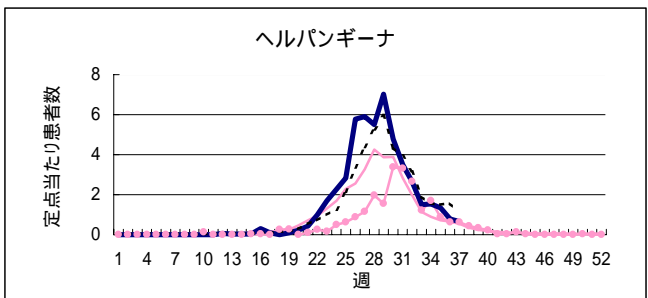
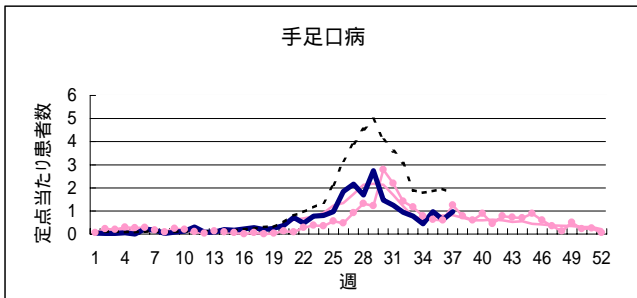
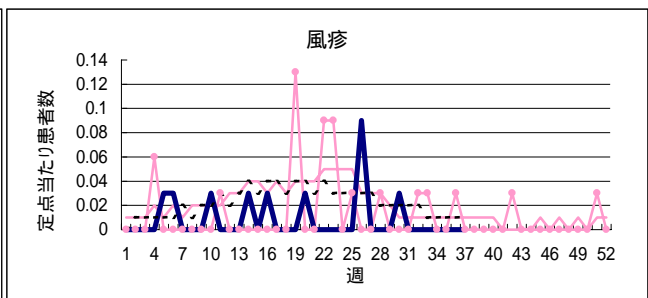
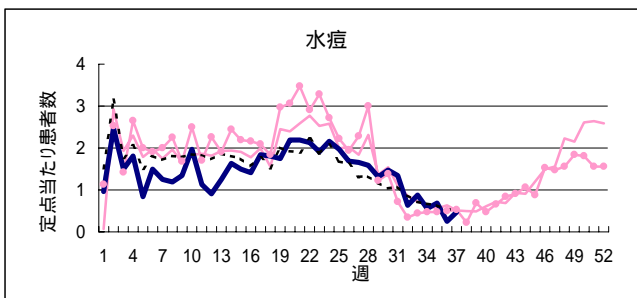
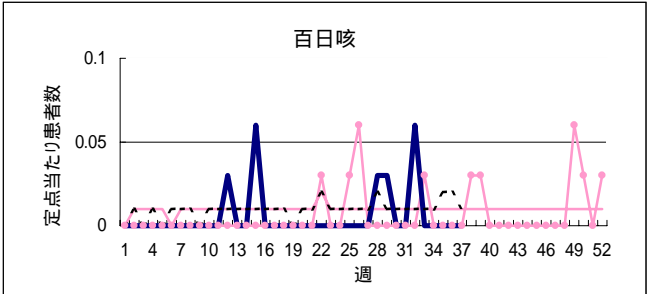
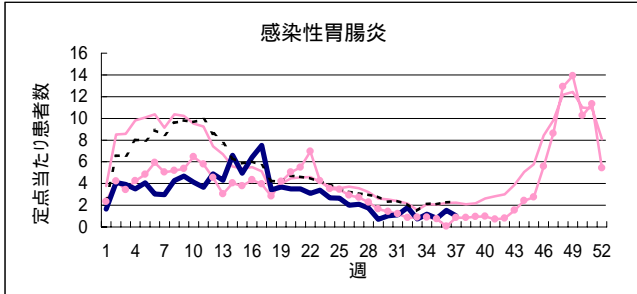
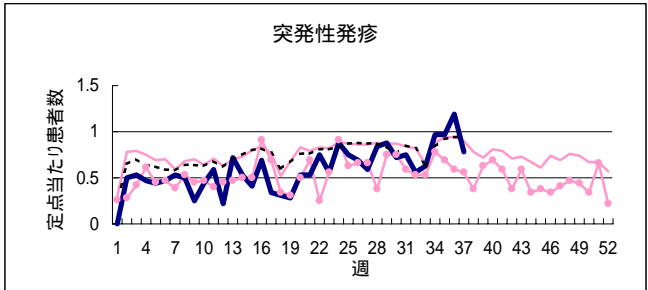
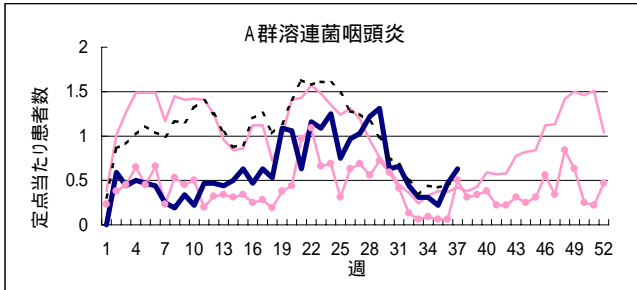
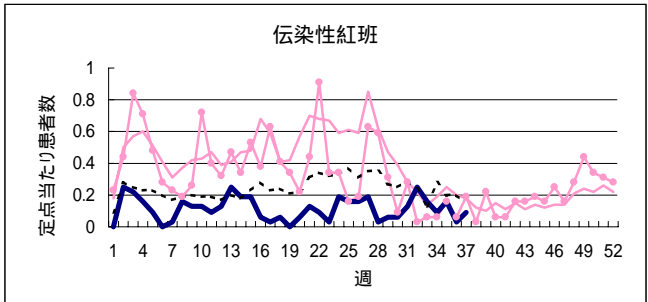
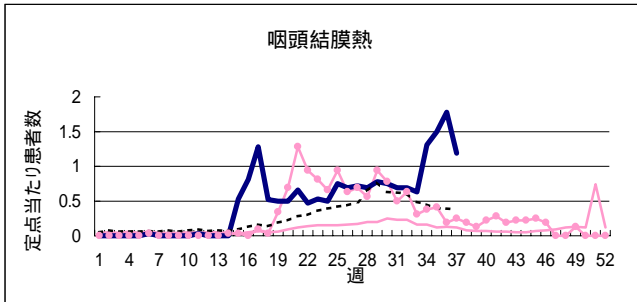
学校保健法における取り扱い

学校保健法においては、第二種の伝染病に位置づけられており、耳下腺の腫脹がある間はウイルスの排泄が多いので、腫脹が消失するまで出席停止となっています。

疾病別定点当たり患者数(平成15年第1週～第37週)



H14 〔 滋賀 (pink solid line) 全国 (pink dashed line) 〕
 H15 〔 滋賀 (blue solid line) 全国 (blue dashed line) 〕



疾病別定点当たり患者数(平成15年第1週～第37週)

H14 〔 滋賀 ●●●●●●
 全国 ————
 H15 〔 滋賀 ————
 全国

